

但馬の

川ものがたり

田山川のホタル

里山の小川を包むゲンジボタルの光



(左) 田山川に乱舞するホタル (上) ゲンジボタルの幼虫は、川底で9カ月間カワニナを食べて過ごした後、さなぎになるため、3〜4月頃、尾部を黄緑色に光らせながら、一斉に上陸を始める。ゆっくりと移動していく淡い光の群は幻想的。

夏の風物詩を代表するホタル。30年前前は、乱舞するホタルを子どもたちが竹ぼうきで追い回すというような光景が各地で見られました。近年ではホタルを見たことがないという子どもも少なくないでしょう。しかし、但馬には、小川や田んぼ、水路など、ホタルの棲む豊かな環境がたくさん残っています。

田山川の支流、出石川上流の谷山川もホタルの生息地のひとつです。山際の小川に棲むのは明るい光を放つゲンジボタル。地元では昔から、ホタルの生息地として知られていました。小さい頃、谷山川でホタル狩りをした思い出があるという山本和則さん。数年前から下谷地区のメンバーと一緒に谷山川のホタルを養殖し、放流する活動を続けています。

山本さんたちは、谷山川のホタルとカワニナを採取し、各家庭でホタルの産卵・ふ化に取り組みました。試行錯誤を繰り返しながら、なんとか育てた幼虫を地区の子どもたちと一緒に放流。

翌年の夏、谷山川では近年にないホタルの乱舞が見られたそうです。



谷山川にホタルの幼虫を放流する子どもたち

ニナが流され、翌年の夏は、各地でホタルの数が激減していました。

山本さんたちは、確保していたホタルを少しでも多く放流しようと、カワニナを探してあちこち駆け回ったそうです。その甲斐あって800匹の幼虫を無事、谷山川に返すことができました。

「メンバーは、専門的な知識のない素人ばかり。活動の原点は、みんなが川で遊んだ頃の記憶でした。今の子どもたちにも、もっと自分が住んでいる近くの川に関心をもってもらいたい」と、山本さん。かつて川を遊び場に育った子どもたちにとって、ホタルの飛び交う光景こそ、本来の川の姿だったのです。

2004年、豊岡市を始め、但馬は台風23号による大きな被害を受けました。濁流にホタルの卵やカワニナが流され、放流活動も中断されました。しかし、活動が再開された翌年、谷山川には再び多くのホタルが乱舞しました。各地で小川のホタルを取り戻そうと、活動が続けられています。暮らした身近に豊かな自然がある但馬。この夏もどこかで、幻想的な光の情景が、子どもたちの心に残り、かき回しているでしょう。



まごころ1番店を目指す!!
不動産のライフフィット!



株式会社 ライフィット

<http://www.lifit.jp/>

(社)兵庫県宅地建物取引業協会 宅地建物取引業者免許 兵庫県知事(3)650061号
●ご希望の物件を 検索できます。詳しくはホームページをご覧ください。
●大好評! 情報誌「ライフフィットタイムズ」無料進呈中!!

アパート・マンション・貸家・土地・中古住宅・店舗の売買など、なんでもライフフィットへお気軽にご相談ください。

本店 豊岡市幸町4番4号 E-mail: info@lifit.jp
TEL.0796-24-2011 FAX.0796-24-2077
豊岡駅前店 豊岡市大手町1番27号 E-mail: ekimae@lifit.jp
TEL.0796-26-6565 FAX.0796-26-6566
和田山店 朝来市和田山町玉置1107-4サンライズ和田山102号
TEL.079-672-6565 FAX.079-672-6566
E-mail: wadayama@lifit.jp



夏の
お引っ越し
セット

土・日曜も営業しています!
お気軽にお立ち寄り下さい!

iCassett

2007.12 OPEN

テナント募集中

まったく新しいスタイルの
デザイナーズ・テナントビル
「イル・カセット」
但馬の新たな情報発信地
お申込・お問い合わせは
株式会社 ライフィット
0796-24-2011



あまるべ
余部鉄橋 (香美町香住区余部)



近代化遺産

を
往
く

高さ41.5mの雄大さ
櫓状に組まれた美しい橋脚
紅のフォルムに心が動く

今春から新橋への架け替え工事が始まった、香美町の余部鉄橋。日本の風景と重なって、雄大にそびえ立つ姿には、誰しもが感動します。

それは決して装飾的な美しさではなく、鉄橋本来の機能を十分発揮することで生まれた美しさ。他の建築物にはない、産業近代化遺産特有の機能美を備えています。

余部鉄橋の特徴といえば、鋼鉄を櫓状に組んだトレスル式の橋脚。最初の計画では、潮風害による保守の困難さから鉄筋コンクリートアーチ橋案が上申されていました。

しかし、莫大な建設費、前例のないことから最終的に鉄橋案が採用。高さ40メートルを越える、当時としては東洋一の規模を誇る鉄橋が造



られることになりました。

橋脚1基に対する足場の数は、約2300本。足場の組み立てだけでも、約13日を費やしました。鋼材の接合に用いられたリベット(鉄釘)の数も4万9千本にのぼり、工事責任者であった岡村信三郎技師が、毎日高い足場に登り、1本1本確認したことは有名な話です。

こうして余部鉄橋は、明治42年から2年2カ月とかけ、延べ25万人の手によって建設されました。

近代土木遺産としての評価も高く、(社)土木学会による調査では、国指定重要文化財に相当するAランクの最高評価を得ています。特に国内に現存する12のトレスル式橋梁の中で2番目



日本海の潮風に耐え続けてきた余部鉄橋



美しいトレスル式の橋脚

に古く、橋長・橋脚数ともに1番規模が大きいことは、特筆すべき点です。また、保存状態もよく、主柱・橋桁は建設当時のものが現存。軌道の狂いや歪みもないそうです。

これは5名の橋守たちによって行われた「繕いケレン(昭和40年廃止)」と呼ばれる保守管理によるもの。毎日、彼らは橋に登り、わずかなセンチの異状を追い続けました。

約100年もの永きに渡って、その機能美を維持し続けた余部鉄橋。その陰には、職人たちの地道な努力があつたといえます。

協力 国土交通省畿内河川国道事務所
参考・引用文献: 記念誌「余部鉄橋」

DATA

- 橋長…309.42m
- 橋脚数…11脚
- 着工…明治42年(1909)12月16日
- 竣工…明治45年(1912)1月13日
- 高さ…41.45m
- 橋台…2基

豊かな未来へ

地域のために、あなたと共に



但馬信用金庫

本店 / 豊岡市中央町17-8 TEL0796(23)1200

<http://www.tanshin.co.jp/>

特別天然記念物 コウノトリ

